

乳房超音波検査を受けられる方へ

乳房非腫瘍性病変におけるカラードプラに関する研究協力をお願い

〈研究の概要〉

近年、日本において乳がんは増加傾向にあります。乳がんは早期に発見できれば治る可能性が高い病気です。超音波検査は、乳がんを早期に発見するためには重要な検査の一つです。超音波検査では血液の流れ(カラードプラ画像)も見ることができますが、カラードプラをどのように評価して診断の参考にすべきかはまだ明らかではありません。そこで全国のいくつかの病院が協力して、カラードプラの評価法と診断に対する有用性を検討することにしました。この研究によって、少しでも多くの乳がんの早期発見が可能になり、有効な治療につながることを、私たち共通の願いです。

〈研究の対象と内容〉

今回、研究の対象となるのは、当院において2018年4月から2020年6月(予定)のあいだに、乳房の超音波検査で乳房に非腫瘍性病変が認められカラードプラ動画画像を記録した方、または2016年1月1日から2018年3月までのあいだに乳房の非腫瘍性病変に対してカラードプラ動画画像を記録した方です。具体的には、超音波検査の結果(画像)と病理検査の結果を研究のために提供して頂くこととなります。

なお今回の研究は、当院で通常行われている検査の結果を集計するもので、研究に協力することによって、皆様に特別な危険や負担がかかることはありません。また、超音波画像および検査結果は当院で責任を持って個人が特定できないような形に加工したうえで、東北大学のデータセンターに送付し、そこで厳重に管理されます(当院における個人情報管理者：乳腺外科 広利 浩一)。

〈画像データベースへの利用について〉

今回の研究で提供して頂いた超音波画像は、今後、乳癌診療に携わる医師や技師の研究や教育のためにも利用させて頂く予定です。その際、画像は個人が特定できない形で保存され、活用されます。

〈研究協力への同意〉

今回の研究では、皆様からとくに連絡がない場合には、検査結果を研究および教育のために利用させて頂きたいと考えています。もし検査結果を提供したくない方がいらっしゃいましたら、どうぞ遠慮なく担当医師までご連絡ください。

なお、今回の研究に協力しないことによって、当院での診断・治療において不利益を被ることはありません。

研究責任者 広利 浩一 (当院 乳腺外科)

より詳しい情報が必要な方へ

- 本研究の正式な名称は、「乳房非腫瘍性病変の超音波診断におけるカラードプラ判定基準作成およびその有用性に関する多施設共同研究(JABTS BC-06)」(研究代表者：大阪医療センター 加奥節子)であり、日本乳腺甲状腺超音波診断会議(JABTS)の用語診断基準委員会が行うものです。
- 本研究は、国の倫理指針(文部科学省・厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」)に沿う形で計画されており、当院の倫理委員会で審査のうえ、科学的・倫理的に適切なものと認められています。
- 研究計画の詳細については、JABTS ホームページをご覧ください(<http://www.jabts.net/>)。また、当院の担当医師にご相談いただければ、個別に対応いたします。